

Title	15 : 歯科治療後の「お食事セット」使用に対する外来患者の主観的評価
Author(s)	大久保, 真衣; 三浦, 慶奈; 上田, 貴之; 杉戸, 博記; 勢島, 典; 森岡, 俊行; 内山, 沙姫; 吉田, 光孝; 大野, 啓介; 矢島, 安朝
Journal	歯科学報, 118(3): 245-245
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10130/4606">http://hdl.handle.net/10130/4606</a>
Right	
Description	

## No.15: 歯科治療後の「お食事セット」使用に対する外来患者の主観的評価

大久保真衣<sup>1)</sup>, 三浦慶奈<sup>1)</sup>, 上田貴之<sup>2)</sup>, 杉戸博記<sup>3)4)</sup>, 勢島 典<sup>5)</sup>, 森岡俊行<sup>6)</sup>, 内山沙姫<sup>7)</sup>,  
吉田光孝<sup>8)</sup>, 大野啓介<sup>9)</sup>, 矢島安朝<sup>8)</sup> (東歯大・口健・摂食嚥下)<sup>1)</sup> (東歯大・老年補綴)<sup>2)</sup>  
(東歯大・修復)<sup>3)</sup> (東歯大・短大)<sup>4)</sup> (東歯大・歯周)<sup>5)</sup> (東歯大・パーシャルデンチャー補綴)<sup>6)</sup>  
(東歯大・水病)<sup>7)</sup> (東歯大・口腔インプラント)<sup>8)</sup> (東歯大・口腔顎顔面外科)<sup>9)</sup>

**目的:** 歯科治療の直後には、一時的に咀嚼が困難となり、食形態の変更が必要になったり、栄養不足を招いたりすることがある。これまで我々は、そのような状態の発生が予想される外来患者に対して、市販の軟食や栄養補助食品、栄養補助飲料などを組み合わせた食事メニュー（以下「お食事セット」）を考案し、これを使用した指導を行ってきた。歯科治療直後の「お食事セット」の効果を知るために、利用した患者にアンケートを行ったので報告する。

**方法:** 歯科治療後に一時的な咀嚼困難が予想された外来患者に対して、東京歯科大学水道橋病院で考案した「お食事セット」を歯科治療後に使用させ、その後にアンケートへ回答させた。期間は2016年6月から2017年9月までとした。アンケート項目は満足したか、美味しかったか、完食できたか、利便性があったか、不快感の軽減に役に立ったか、再度利用したいか等とした。アンケート形式はVASを利用し肯定的であるほど10、否定的であると0とした。統計学的検討には spearman の相関分析を行った

(東京歯科大学倫理審査委員会 承認番号675)。

**結果:** アンケート総数は41件、対象診療科別は、インプラント科17件、補綴科15件、矯正科6件、保存科3件であった。VASの平均値は、満足したかでは6.75、美味しかった6.22、完食できたか8.29、利便性があった8.91、不快感の軽減に役に立ったか8.04、再度利用したいか6.14で概ね肯定的であった。また満足した項目は美味しかった、および再度利用したいという項目との間に強い相関性が認められた。

**考察:** 「お食事セット」を利用することで、歯科治療直後の食事に利便性、不快感軽減に効果があったと考えられた。歯科診療直後の栄養指導として、このような食事メニューを提供することは患者のQOLの向上として必要であることが示唆された。また満足度は美味しさにも影響があるため、今後年代による嗜好の違いや量の違いを検討する必要があると考えられる。

## No.16: 母親学級における口腔保健に対する意識調査

吉田成緒<sup>1)</sup>, 河地 誉<sup>1)</sup>, 石井友季子<sup>1)</sup>, 杉浦貴則<sup>1)</sup>, 三邊 梓<sup>1)</sup>, 今井光枝<sup>2)</sup>, 杉山重里<sup>3)</sup>,  
杉原直樹<sup>2)</sup>, 高松 潔<sup>3)</sup>, 野村武史<sup>1)</sup> (東歯大・オーラルメディシン口外)<sup>1)</sup> (東歯大・衛生)<sup>2)</sup>  
(東歯大・市病・産婦科)<sup>3)</sup>

**目的:** 周産期における口腔保健情報は、マスメディア、行政サービス、産科が主催する母親学級など様々な方法で得ることができる。歯周疾患と早産・胎児発育不全のリスクとの関連が明らかにされて以来、妊娠期における口腔管理の重要性がより強調されている。しかし妊婦を対象とした調査では、歯周疾患がおよぼす全身への影響に関する知識は低く、情報発信が十分であるとは言いがたい。東京歯科大学市川総合病院では母親学級の開催時に歯科の時間を設け、口腔保健指導を行っている。今回、我々は妊娠期の口腔保健に関する意識調査を行い、妊婦にとって必要な情報とは何かを調査することを目的とした。

**方法:** 平成28年11月から平成30年3月までに当院産婦人科で定期健康診査を受けている16~25週の121名(平均年齢 34.2±4.6歳)を対象とし無記名のアンケート調査を実施した。調査項目は、年齢、仕事、口腔内で気になっていること、かかりつけ歯科医院の有無、口腔健康状態で知りたいこと、母親学級の受講についてなど全12項目とした。

**結果および考察:** 年齢分布は30歳代が最も多く78名

(64.5%)であった。初産が111名(91.7%)であった。仕事をしているのは77名(63.6%)であった。口腔内で気になることがあるのは83名(68.6%)であり、歯に関連するものが52名(43.0%)、口臭、乾燥などの訴えが76名(62.8%)であった。約70%が口腔内に気になることがあるが、かかりつけ歯科医院があるのは65名(53.7%)、そのうちで定期受診しているのが40名(61.5%)と定期健診への意識が低いことが示され、歯科保健に対する知識の普及と歯科定期健診の重要性を訴えていく必要があると考えられた。子の知りたい情報として、虫歯予防・フッ化物について64名(52.9%)、ブラッシングについて54名(44.6%)、歯周病について46名(38.0%)であった。母親学級の受講内容についての感想は全員が良いと答えていた。時間帯については94名(77.7%)が良いと答えていた。受講内容を家族に話すと答えたのが118名(97.5%)であったが、実際に配偶者の付き添いがあったのが2名(1.7%)しかなく平日の14-16時の開催という時間帯には再考の余地があると思われた。